国際ロータリー第2780地区第1ｸﾞﾙｰﾌﾟ　WEEKLY REPORT MIURA RC

三浦ロータリークラブ 週報

2009～'10年度 国際ロータリーの テーマ

◇ 国際ロータリー会長
ジョン・ケニー（スコットランド、グランジマウス）

◇ 国際ロータリー第2780地区ガバナー
奥 津 光 弘（秦野中RC）

◇ 国際ロータリー第2780地区第1ｸﾞﾙｰﾌﾟ
ｶﾞﾊﾞﾅｰ補佐 佐久間 博 一（横須賀RC）

◇ 三浦ロータリークラブ
会　長　笠 倉 正 弘
副会長　秋 本 清 道
幹　事　菊 池 恵

◇ 広報委員会（広報.雑誌.IT）
委員長　荒 宏 昭
副委員長　芹 川 直 行
事務局　山 田 香

◇ 例会日　毎 週 木曜日12 時30分点鐘
◇ 例会場　三浦商工会議　3 階 ホール
◇ 例会場所＆事務所住所
〒238-0243 三浦市三崎2丁目22番16号
◇TEL 046(881)5111㈹ ＊FAX 046(881)3346
◇ Website ： http://www.miura-rc.jp

ニコニコBOX集計報告

	本　日	前回迄	累　計
ニコニコ	4,000円	75,000円	79,000円
財　団	0円	29,000円	29,000円
ポリオ	0円	7,000円	7,000円
米　山	2,000円	33,000円	35,000円
周　年	0円	1,000円	1,000円
計	6,000円	145,000円	151,000円

２００９年　９月２４日 第２３３９回 例会

◇ 点 鐘　１３時３０分
◇ ロータリーソング『それでこそロータリー』
◇ ゲスト・ビジター紹介
本日はいらっしゃいません。

◇ 1.会員報告　笠倉正弘 会長

お彼岸過ぎのこの頃ですが、まだまだ、残暑があるようです。
「シルバーウィーク」と呼ばれる今度の連休ですが、各行楽地、高速道路は自然渋滞と事故渋滞でにっちもさっちもならなかったようです、仕事や急用で出かける人、運送業のトラックなどからみるとえらい迷惑な話です。　今後有料道路が更にタダになったらどうなるんでしょうか？
仕事で一週間ほど広島に行き、今朝、帰崎しましたが電車や空港ではかなり多くの人が旅行支度で見受けられこの不景気の中、まだまだ余裕のあるひとがいるもんだと考えさせられました。
本日は吉田会員の卓話です。恐らく会員歴の長さからみて本日の卓話で相当な回数になると思いますがベテランの味でやっていただけると楽しみにしています。

◇ 2.幹事報告 秋本 清道 副会長

※米山記念奨学事業報告・豆辞典
※クラブ米山記念奨学委員長の手引き
（寄付ﾏﾆｭｱﾙ）
※米山記念奨学会
２００８年度事業報告書・決算報告書
※例会のお知らせ　横須賀ＲＣ
※週報　葉山ＲＣ

◇ 3.出席報告

吉田 益夫 委員長
会員総数２７名　本日出席１４名、本日欠席１２名　出席率５３．８％となります。

◇ 4.ニコニコBOX報告

秋本 清道　副会長
星野　雄　長い休みでした。やはり仕事をしている方が私には合っています。吉田益夫会員、本日の卓話は何でしょう。楽しみにしています。
白坂義道　１７日の夜間例会は業務上の都合で欠席させていただきました。

申し訳ありませんでした。
芹川直行　前回欠席のお詫び。
松崎貞男　先週欠席のお詫び。
菊池　恵　前回欠席のお詫びと本日の卓話、吉田会員宜しくお願い致します。早退をおゆるし下さい。

◇ 卓話　吉田益夫　会員

後期三浦氏滅亡の跡をたずねる―油壺

室町時代には、三浦半島の新井城を本拠地に平塚・伊勢原あたりまで勢力を保ち、やがて小田原の北条早雲と対立し、1516（永正13）年、新井城で滅ぼされた。後期三浦氏滅亡の跡をたずねてみましょう。

引橋バス停で下車し、県道の三叉路を三崎方面へ進む。かつて、敵が攻めてきた時に橋を引いて侵入を防いだ引橋があったという場所を通り、右手の旧道に入る。配水塔をすぎると周囲に畑が広がる。しばらく進むと左手の畑の中に大きな土まんじゅうが２つ見える。これが義士塚で新井城で三浦氏と北条氏が合戦をした時の戦死者の供養塚といわれる。

この道をさらに油壺方面へ進むと油壺へのバス通りへ出る手前に、三浦道寸父子が一族の興隆を祈願した真光院がある。本堂には道寸父子の衣冠束帯姿の木像がある。この寺の裏手に昼なお暗いなも（う）た坂がある。新井城の落城まじか、身重の道寸の側室が逃れてきた場所で、側室はこの坂の下の小川に架かる橋の所で死産してしまい、自分もここで自害したと伝える。

油壺に向かい、右折して小網代湾への道を進むと海蔵寺がある。三浦道寸の開基と伝え、堂内正面には「飛首伝説」を描いた絵馬がある。

道を湾に沿って小網代の森方向に進むと白髭神社がある。三浦七福神の一つ長安寿老人の神社としても知られ、三浦道寸が社殿を改修したと伝える。本殿左側にカンカン石という細長い石がある。材質はサヌカイトで石の錨であるといわれ、かつて小網代湾が風待ち港として栄えていた時に奉納されたものという。

もときた道をもどりつつ、民家の間を進むと永昌寺（えいしょうじ）がある。三浦道寸が再建し、その法名が寺の名になっているといい、三浦道寸父子の肖像画（江戸後期）がある。この寺から急坂を上り油壺行きのバス通りに出る。道路を横断し旅館荒井館脇の小道を行くと左手に墓地とお堂がある。ここが永昌寺の子院の霊照院（れいしょういん）で、この名は荒次郎の妻の法名に由来するという。墓地内にはその墓と伝わる卵塔型の墓があり、堂内にはその持仏という大日如来が祀られている。

バス通りに戻り、油壺へ向かう。油壺バス停から東京大学臨海実験所に行く途中、左手に海の見える辺りが、新井城の木戸口（内城の大手口）で、ここには内の引橋があった。実験所には許可なく立入れないが、荒井浜へ下る途中右手に城の空堀や平場の様子を少しだけ見ることができる。また実験所構内の南東部の崖には千駄やぐらという食糧貯蔵庫もあった。

道を戻り、油壺マリンパーク前へと進む。このマリンパークと実験所一帯が1438（永享10）年三浦時高が築造した自然を利用した平山城の新井城の跡である。マリンパーク前の駐車場あたりで新井城最後の合戦が行われたという。マリンパーク右手に三浦道寸のこの荒次郎義意の墓がある。小田原を望め、道寸が日頃から好んだ場所という。墓の左手には、道寸が落城の際詠んだ「討つものも討たれるものもかわらけよ　くだけてあとはもとの土くれ」の辞世が刻まれている。

ここ新井城で1516（永正13）年三浦一族は三年間籠城の後、北条早雲により滅亡した。この時、多くの将兵が海に身を投じ、海が血で油のようになったことから、ここを油壺と呼ぶという。毎年５月の最終日曜日には道寸祭も行われている。

三浦一族の跡をたずねる―三浦海岸

三浦海岸周辺にも三浦氏関係の史跡が残ります。三浦氏の史跡をたずねて、その興亡の様子をしのんでみよう。

三浦海岸で下車し、海岸へ向い交差点を剣崎方向にバス通りを白山神社バス停をめざして進む。バス通りでなく一歩奥の旧道を歩いてもよいだろう。白山神社バス停を右折して奥に道を進む。途中左手に進み小高い山を上ると菊名左衛門重氏の墓がある。重氏は三浦道寸の家臣で菊名を領地としていたといい、その山裾には重氏の屋敷跡という「浜御殿」の地名が残る。もとの道にもどり、さらに奥へ進むと右手に白山神社がある。重氏の守り神であったのを、その死後ここに移したという。この神社裏側には三浦半島でも貴重な切妻造妻入形横穴古墳がある。もとの道に戻りさらに奥へ進むと右手に琴音伝説のある法昌寺がある。この寺の本堂裏の山裾には岩を浅く掘った「やぐら」という穴がある。やぐらは鎌倉から室町時代にかけ多く作られた死者の骨を埋葬、供養した所である。三浦氏と何らかの関係があるのではといわれるが未詳。

ここからもとの道をバス通りまで戻る。バス通りを海沿いに剣崎方向に進み、岩浦（いわぶ）バス停をめざす。このバス停の右手背後の小高い丘の上に三浦義村の墓といわれるものがある。またこの山の側面にはやぐらもあり三浦氏と関係があるのではといわれる。バス停から少し剣崎方向へ進み、右折して道なりに山を上ると福寿寺がある。三浦義村が建てた寺で、寺宝として義村が愛用したと伝わる鞍とあぶみがある。また岩浦の義村の墓にかつてあった南向院（廃寺）という寺の義村の信仰してた地蔵菩薩像が、ここに移されて祀られている。

和田一族発祥の地をたずねる―和田

三浦一族の和田氏は、「和田の里」が発祥の地といわれます。和田の里周辺に残る和田氏の旧跡をたずね

て、和田氏の盛衰をしのんでみましょう。

京急三崎口駅からバス横須賀・長井行きに乗り、バス停和田で下車。少し三崎方面にもどり、和田の信号を右折して進むと左手にこんもりした天王社がある。この境内に和田義盛旧里碑が建つ。大正10年に義盛をしのび、三浦一族の子孫という男爵三浦英太郎によるものだ。この道をさらに進んで、初声農高をすぎ長浜海岸へ行く途中、左側に和田城跡の石碑が建つが城跡とは関係ないらしい。和田氏の館は旧里碑から初声農高一帯の和田の里にあったらしく、付近には木戸脇、出口、唐池など館を思わせる地名が残る。

和田バス停へもどり少し横須賀方向に進むと左手の石段の上に廃屋が残る。ここが安楽寺跡で、石段脇には石仏や石塔が、廃屋裏にも墓が一部残り面影を残す。安楽寺は和田義盛の館の鬼門（北東）除けに建てられた寺ということから館は西南の方角に建てられていたと考えられる。この安楽寺跡と道路をへだて右前方に天養院がある。安楽寺が国道拡張工事で廃寺となったのち、その本尊で義盛が信仰した薬師三尊（県重）は現在ここに祀られている。

天養院からバス停和田方向にもどり、大泉寺先を左折して進むと神明白旗神社がある。義盛の死後、和田に村人たちが義盛のために建立したという。石段を上りつめた所から東南の眼下に広がる入江新田は、東西約330m、南北約550mで江戸時代宝暦頃（18C初）に開発されたものだ。それまでは入江で海水が入りこんでいたという。

白旗神社の東北方向の田んぼの真中、庄司川（精進川ともいう）がある。義盛が近くの延命地蔵尊（のち五劫寺に安置）を深く信仰し、それを参詣するとき、必ずこの川の水で身を清めたいう。川にはわくり井戸からの湧水が注いでいたという。

五劫寺（廃寺）は高円坊の初声保育園への手前、和田悌五郎氏宅にあった。和田氏は高円坊を開いた和田朝盛の子孫と伝える。五劫寺跡前の道路沿いに進み、右手の農道をより台地上に出ると日枝神社がある。その神社の近くの畑の中に朝盛塚がある。朝盛は義盛の孫で1213（建保元）年和田一族が北条氏と戦い敗れた和田の乱ののち、この地に逃れ、帰農して土地を開拓したという、その法号「高円坊」の名にちなみ、この地を高円坊と呼ぶようになったという。

日枝神社から農道を通って三浦海岸駅方向に進む来福寺がある。来福寺は和田義盛の菩提寺で、本堂右側の厨子には和田義盛の木造（室町時代作）がある。また墓地には海防のため幕末に上宮田陣屋に駐屯した彦根、長州藩士の墓がある。県道に出て、道なりに進み下ると三浦海岸駅に至る。

機会があれば、和田義盛が復興（開基とも）した寺で義盛夫妻が運慶に依頼して制作させて毘沙門天立像など運慶の作品が残る芦名の浄楽寺をぜひたずねてみたい。

三浦氏の本拠地大矢部の里をたずねる

前期三浦氏の本拠地といわれる大矢部の里には、数多くの三浦氏の寺や史跡、また衣笠城があります。大矢部の里に三浦氏興隆のあとをしのぼう。

衣笠城址バス停で下車し、横断歩道を渡り、コンビニの角を旧道に入るとすぐ右側に大善寺の矢取不動尊を分祀した前不動がある。これを少し下った右側には姓名塚がある。衣笠合戦で死んだ人を敵味方の区別なく刀など武器と一緒に葬った場所という。

衣笠温泉を右に見て進む。横々道路の衣笠インター前、大谷戸川と深山川が合流するあたりが衣笠城の大手口（表口）であるという。この大手口の上部は共同墓地になっていて源氏の館があった場所という。その反対側を平家畑という。城址へ向かって進み、急坂を上り、少し下った所に石で囲った長方形の井戸がある。不動井戸と呼ばれ、衣笠城の重要な生活用水であった。この井戸の裏側には不動尊像が安置され滝不動といわれる。この井戸の手前に三浦氏の子孫という岩間氏宅がある。この家の裏手には五メートル程の巨石がある。合戦の折にこの岩に旗を立てた伝承から旗立岩といわれる。

井戸を右折して石段を上ると大善寺に至る。この寺の不動尊像は後三年の役に出陣した三浦為継を敵の矢を取り守ったという伝承から矢取不動ともいわれる。かつて大善寺や現存しないが蔵王権現社や不動堂は三浦一族の学問、信仰の中心であったらしい。大善寺一帯が二の丸跡に相当するという。大善寺の一段のもう一つ先の石段を上ると衣笠城址に至る。

大善寺の本堂の上の台地が衣笠城の本丸跡という。また城址の両端には巨大な岩がある。物見岩と呼ばれ、のろしをあげる合図をしたり、敵の監視をした所というが、１９１９（大正８年）にこの岩の根元から平安末期の経筒・鏡・石打鎌刀子・唐子人形水滴・白磁合子などが発見されたことから経塚（経典を後世に伝えるため地中に埋めて塚を築いたもの）と考えられる。

大善寺への石段を上らず、不動井戸前を通り左へ坂を上ると搦手口（裏口）に至る。ここからは平作方面へと通じる。もときた通をバス停までもどる。バス停から横断歩道を渡り満昌寺へ向かう。途中、左折して湘南衣笠ゴルフクラブへの道を進むと坂の途中右手の山肌に磨崖仏がある。よく見ないとわからないが、鎌倉時代のもので阿弥陀如来などが線刻されている。三浦氏と関係のあるともいうが不詳。

三浦氏

北条氏と対立して三浦氏本家が滅ぼされた宝治合戦（1247）を境にそれ以前を前（期）三浦氏、本家滅亡後、一族の佐原氏が三浦氏をついで油壷の新井城で1516年小田原北条氏に滅ぼされるまでを後（期）三浦氏と呼ぶ。